

トップニュース 令和元年東日本台風水害 福島県内公営住宅復旧工事完成

令和元年10月、台風19号(東日本台風)が通過した関東甲信地方、東北地方等東日本の広い地域において、記録的な大雨、暴風等による多くの人的被害、住家の被害が発生しました。

日本住宅パネル工業協同組合(パネ協)は、人的被害、住家の被害の最も大きかった福島県において、床上浸水となった公営住宅団地のうち、いわき市内の4団地(県営鯨岡団地、県営叶田団地、市営平窪団地、市営向後川原団地)における合計24棟、126戸の復旧工事に取り組む機会をいただきました。

それぞれの住戸の被害状況を現地調査により確認しながら、関係者の協議により全面改修又は部分改修とすることが決定され、全面改修となった鯨岡団地の25戸においては、パネル工法により迅速な復旧の実現を図りました。

また、全国で約1000人を擁するパネ協の協力大工工務店組織を通じて、職人の確保に努め、部分改修が選択された他の住棟、住戸を含め、すべての団地において計画期間内(令和2年1月~7月)の工事完了を実現することができました。

福島県土木部の新開永次長(建築担当)からは、「全国組織の利を活かし、遠くは関西方面から職人を手配し、住戸内部の復旧を短期間に完了させた」ことなどパネ協の復旧工事への貢献について評価をいただきました。



改修前 くらおか 鯨岡団地(全面改修(写真)25戸と部分改修32戸)

改修前 かのうだ 叶田団地(部分改修56戸)

改修前 ひらくぼ 平窪団地(部分改修10戸)

改修前 むかうしろかわはら 向後川原団地(部分改修3戸)

宮城県・仙台市と木造応急仮設住宅の建設に関する協定を締結

パネ協も構成団体となっている「宮城県木造応急仮設住宅建設協議会」は宮城県・仙台市と、令和2年9月30日、木造応急仮設住宅の建設に関する協定を締結しました。

同協議会は、災害時において、宮城県及び仙台市の要請に対し、木造応急仮設住宅の建設について可能な限り協力することとされています。

詳しくは、宮城県、仙台市のホームページをご覧ください。

<https://www.pref.miyagi.jp/release/ho20200930.html>

<https://www.city.sendai.jp/jutakutaisaku/oukyuukasetu/kyoutei.html>

令和元年東日本台風 水害復興の記録

パネ協が携わった、福島県内公営住宅復旧工事に関する経緯、全面改修・部分改修の基準やそれぞれの仕様、パネル工法の図面など、詳しい情報を取りまとめた「2019~2020 令和元年東日本台風 水害復興の記録」を発刊しました。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://www.panekyo.or.jp/file/suigaifukkounokiroku.pdf>



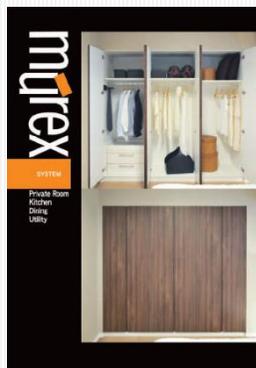
パネ協の商材紹介

システム収納 「ミューレックス」シリーズ

パネ協のシステム収納家具「ミューレックス」は、25年余にわたってこれまで多くのお客様にご愛顧いただいております。

精度良く製作されたパネルを、システム化された金物を用いて現場で組み立てる、パネルロックダウン方式を採用していますので、スピーディで確実な施工が可能です。また、完成品に比べて住戸への搬入が容易で設置場所に合わせたサイズを選択できます。

多くのオプションパーツをネットショップ(PANEKYOショッピング)でご購入いただけます。



詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://www.panekyo.or.jp/product/storage/storage005.html>

布団が収納できるシステム収納「ミューレックスキューム」は、幅1100mmと可動棚を実現しています。

「ミューレックスコロールα」は、間仕切としての機能を持った可動式のシステム収納ユニットで、間取りの変更にも活用いただけます。

また、消臭機能付きの収納扉や天然木の表面に様々なデザイン加工を施した「和(なごみ)」もご用意しています。



地場産材活用プロジェクト紹介

パネ協は、集合住宅の間仕切や棚などの各種木質パネルの芯材、床の下地や仕上げ材にその地域から産出される木材の活用を進めてまいりました。

また、小中学校等の文教施設や福祉施設の内外装や家具、建具、手すりに加え外構にも地場産材を積極的に活用し、地域と密着した空間づくりや地場産業の振興に努めてまいりました。

2019年の地場産材の使用実績は4,063㎡となり、2年連続で4,000㎡を超えました。

今後も、発注者の皆様のご要望に応えつつ地場産材の活用を積極的に進めてまいります。



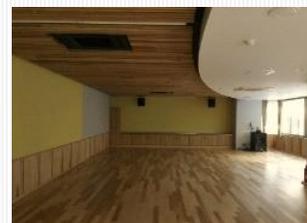
兵庫県営柏原南多田住宅
(丹波市・2020年11月竣工予定)

>間柱・腰板・モルーパーに
兵庫県産杉材を使用
(使用地場産材量9.98㎡)



霧島市立小学校
(霧島市・2017年竣工)

>教室と廊下の間仕切りに
鹿児島県産杉材を使用
(使用地場産材量14.7㎡)



京都市立雅小学校
ランチルーム
(京都市・2020年3月竣工)

>天井格子・壁羽目板に
京都市内産杉材を使用
(使用地場産材量49.4㎡)

パネ協 営業所紹介

神戸営業所

神戸市中央区浜辺通2-1-30 ☎078-222-5086

担当地域 兵庫県

営業所長 宗末 徹也

当営業所は神戸三宮を拠点に、兵庫県全域で公営住宅・公的施設・マンション・文教施設・商業施設など、様々な物件に携わっており、内装のプロフェッショナル集団として、木工事をはじめ、建具、家具、床、金物、デッキ工事など、幅広い分野の工事を担当しております。

直近の工事実績としましては、兵庫県営柏原南多田住宅(木工事施工、写真は「地場産材プロジェクト」参照)、佐用朝霧養護老人ホーム(木工事施工)、姫路市営市川住宅(内装パネル工事施工)などがあります。

公営住宅、施設物件ともに、地場産材活用を通じて、今後も地域振興に貢献していきたいと思っております。



佐用朝霧養護老人ホーム
(天井、壁羽目板、垂木に不燃木材使用)



姫路市営市川住宅 (DK廻り)

京滋営業所

京都市下京区七条通油小路東入大黒町227番地
☎075-344-1691

担当地域 京都府・滋賀県

営業所長 坂川 寛

京都府においては、京都議定書が採択された都市として先導的に地球温暖化対策に努め、森林の保全及び整備を図るため、地域産材の利用が推進されています。京都府地球温暖化対策条例により、公共物件の他、民間物件でも地場産材の使用が一定量義務づけられており、当営業所では認証を受けた地場産材LVLの活用を積極的に提案し採用いただいております。(事例・京都市立雅小学校ランチルームの写真は「地場産材プロジェクト」参照)

滋賀県営住宅におきましても、床・間仕切パネルの芯材に積極的に滋賀県産スギを使用しております。また、他の事業主体に先駆けて継続的に洗面所壁面に水廻り用化粧板を採用していただいております。



京都市中央卸売市場 宿泊施設ロビー
(天井格子、壁見切に京都市内産杉材活用)



滋賀県営大森団地2期 外観
(床・間仕切パネルの芯材に滋賀県産杉材使用)

福岡県庁講習会に講師派遣

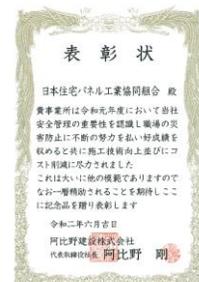
パネ協は、令和2年8月7日、福岡県庁建築都市部営繕設備課主催の研修会に、講師として西日本支所の岩永顧問を派遣いたしました。

当日は、約20名の県職員の方に「公共建築物等木材利用促進法」及び「建築基準法」による木造建築関連基準の概要をご説明し、木造・木質化の事例をご紹介をいたしました。



短信

令和2年6月、パネ協(大阪支所)は、阿比野建設株式会社様から、令和元年度において労働災害防止および施工技術向上、コスト削減に寄与したことについて、表彰を受けました。



PANEKYO ニュースレター 第8号 2020. 10. 01

編集・発行 日本住宅パネル工業協同組合

113-0021 東京都文京区本駒込 6-15-7

Phone : 03-3945-2311 <http://www.panekyo.or.jp/>